

たたき上げ病院事務長 奮闘記!!

連載 第3回 熊本県医療法人協会事務長会の取り組み

事務長会での奮闘

熊本県医療法人協会事務長会（以下、事務長会）には、事務長就任前から多くかかわることができました。それは、私が前職の総務課長や事務次長だった時に、当時の事務長（女性）が「顔を売ってきなさい」と言って事務長会の行事がある度に、参加する機会を多く作ってくれたからです。

事務長会は「熊本県医療法人協会会員病院（2021年7月現在76会員病院）の事務長相当職により組織し、医療機関経営に資する情報交換および会員の資質向上を目指す」ことを目的に1980年に設立されました。現在、私は事務長会副会長を拝命しており、会長・副会長および幹事・事務局ならびに会員と協力しながら目的を達成するために定例会（月1回）、病院事務管理研究会（年1回）、病院経営調査（年1回）、地方例会（年1回）、講演会等を実施しています。

また、若手事務職員で構成する下部組織として病院運営勉強会、医事課勉強会、熊本県病院広報を考える会、総務・経理勉強会、システム担当者会議を設置し、次世代の事務長育成につなげています（表1）。

（1）突然の副会長依頼に

私が事務長会副会長を拝命したのは、事務長になって1年半後の2018年3月のことでした。その1カ月前に当時の会長、副会長がそろって当院に来院されました。当時

の副会長が自院の人事異動で副会長を続けることができなくなり、私に後任として引き受けてほしいという依頼でした。何の前触れもなく突然の依頼に困惑と不安の中ではありましたが、何かのお役に立てればということで引き受けました。

しかし、身体は正直でした。副会長という重責によるストレスだったのか、翌日から40度近くの熱が1週間続きダウンしてしまいました。原因不明でしたが次第に体調は回復していき、冷静に考えられる体調に戻った時には、副会長を引き受けたことの重大さを実感しました。引き受けた以上、「やるしかない!」と自分に言い聞かせながら覚悟を決めました。

（2）一人になっても

2020年度は事務長会役員改選の年でした。当時の会長は2020年3月で自院を定年退職、もう一人の副会長は昇進され再任を受けない意向を伝えられました。事務局も業務の都合上継続は困難とのことで、結局当時の役員は私一人だけが残ることになりました。

この時も「やるしかない!」と自分に言い聞かせながら再任を承諾しました。新役員もそろい、これで事務長会は安定した運営ができると安心したところでした。

（3）新体制でのスタートに奮闘

事務長会新体制でのスタートを目前に控えた2020年2月、諸事情によりしばらくの間、会長不在で事務長会を運営することに

表1 2021年度 熊本県医療法人協会事務長会 組織図（2021年7月1日現在）

事務長会執行部		会長1人、副会長2人、幹事1人		
病院運営勉強会	医事課勉強会	熊本県病院広報を考える会	総務・経理勉強会	システム担当者会議
担当事務長1人 世話人6人	担当事務長1人 世話人2人	担当事務長1人 世話人6人	担当事務長1人 世話人3人	担当事務長1人 世話人4人

なりました。新役員の中で私だけが再任だったこともあり会長代行としての任を受け、他の役員と協力しながら事務長会のかじ取りをすることになりました。

その時期は新型コロナウイルス感染拡大による第一波前ではありましたが、各病院の事務長は不安と恐怖を抱えながら、職員や患者および病院を守るための感染症対策と資金繰り等に知恵を絞っていた時期でもありました。新型コロナという未曾有の事態で、やること考えることすべてが初めてのことで、事務長会としてどのように対応したらよいか役員で検討を重ねていた矢先、県内初の感染者が会員病院に発生しました。その会員病院からマスクなどの消耗品が不足しているとの情報が入り、事務長会に協力要請し集まったマスクなどを届けました。

また、2020年7月に発生した熊本豪雨で被災した会員病院からは、患者の食事が不足しているという連絡が入り、事務長会に備蓄食などを少しずつ分けていただくよう協力要請し届けました。会長不在時のかじ取りでしたが、奮闘しながらも役員会や会員の協力により連携・対応ができたと思います。

このような事態を経験したことから、月

1回開催の事務長会定例会では新型コロナ対策や補助金、災害対策など全体でノウハウを共有できるように情報交換の時間を有効活用し、連携強化につなげました。

特徴ある事務長会の活動

ここで、事務長会として特徴のある内容・組織について何点か紹介します。

（1）病院事務長を意識するきっかけになった「病院事務管理研究会」

毎年8月に、会員病院の若手事務職員が日頃の取り組み成果や事例を発表する場として開催しています。例年15演題前後の発表があり、会員病院からは300人を超える事務職員等が参加しています。他院の取り組みなどを聞ける機会であり、各病院の刺激にもなっています。

研究会終了時に「もう少し詳しく聞きたい演題」のアンケートを取り、希望の多かった演題・演者にさらに掘り下げて発表を行う機会・仕組みもできています。私も事務長になるまでに3回ほど発表する機会をいただき、「もう少し詳しく聞きたい演題」にも選ばれ、事務長を目指すステップになりました。

2021年8月21日（土）に開催した第15回

表2 2021年8月21日に開催した「病院事務管理研究会」プログラム

2021年度 第15回病院事務管理研究会 プログラム					
開催日時：2021年 8月21日(土) 14：00～16：50 主 催：熊本県医療法人協会事務長会 発表会場：Web開催（Zoom）					
プログラム 司会進行 西村 俊也（事務長会副会長・成尾整形外科病院 事務局長 兼 事務部長）					
開会挨拶	14：00 ～ 14：05	白石 清隆（事務長会会長・熊本リハビリテーション病院 法人本部事務局長）			
研究発表会	時 間	演 題	病院名	所 属	発表者 （敬称略）
第1部	14：05 ～ 14：55	第1部 総務・経理			
	座長 高本 昌彦（出田眼科病院 事務長）				
	14：05 ～ 14：12	当院の新型コロナウイルス感染対策	成尾整形外科病院	総務課主任	
	14：12 ～ 14：19	コロナ検査場設立に携わって	谷田病院	庶務・経理	
	14：19 ～ 14：26	電子給与明細システムを導入して	菊南病院	経理課係長	
	14：26 ～ 14：33	内視鏡スコープ保守管理の見直し ー修理費削減を目指してー	大腸肛門病センター 高野病院	診療部 臨床工学 科副主任	
	14：33 ～ 14：40	稟議処理の効率化及び、研修費精算 方法の変更について	熊本リハビリテー ション病院	財務課	
	14：40 ～ 14：55	質疑応答			
休 憩	14：55 ～ 15：00				
第2部	15：00 ～ 15：50	第2部 医事・患者支援			
	座長 守下 清孝（菊池中央病院 事務長）				
	15：00 ～ 15：07	過去3年間の返戻に対する対応と今 後の課題	熊本機能病院	医事課外来係	
	15：07 ～ 15：14	医療相談ツールの拡大を試みて ーLINE相談を通しての一考察ー	大腸肛門病センター 高野病院	患者支援センター	
	15：14 ～ 15：21	新型コロナウイルス流行とワクチン 接種に伴う当院の取り組み ～医事課の役割～	くまもと成仁病院	医事課	
	15：21 ～ 15：28	指示受けシートを活用した医師代行 業務の効率化	熊本機能病院	医事課メディカル クラーク室	
	15：28 ～ 15：35	当院の外国人対応の取り組みについ て	大腸肛門病センター 高野病院	患者支援センター 副主任	
	15：35 ～ 15：50	質疑応答			
休 憩	15：50 ～ 15：55				
第3部	15：55 ～ 16：45	第3部 医療情報・情報システム			
	座長 小阪 勝巳（新生翠病院 事務長）				
	15：55 ～ 16：02	病院機能評価の認定取得に向けて ～ゼロから始める事務局・進め方の 一事例～	くまもと南部広域病 院	情報企画課	
	16：02 ～ 16：09	youtube広報効果と活用方法	谷田病院	IT広報主任	
	16：09 ～ 16：16	e-ラーニング導入について	熊本泌尿器科病院	システム課チーフ	
	16：16 ～ 16：23	システム担当者による働き方改革へ の取り組み	青磁野リハビリテー ション病院	情報管理課	
	16：23 ～ 16：30	オープンデータを用いた地域にとっ て最適な病院機能の考察	苓北医師会病院	事務長	
	16：30 ～ 16：45	質疑応答			
講 評	16：45 ～ 16：50	藤本 裕三（事務長会副会長・くまもと成仁病院 事務長）			

「病院事務管理研究会」は事務長会初の「オンライン病院事務管理研究会」で、200人以上の申し込みがありました。参加者の皆さんに「伝わる研究会」になればと、事務長会役員会とシステム担当者会議が一体となって運営しました。2年ぶりの開催でしたが、2年間の蓄積された多岐にわたる素晴らしい演題がそろい、演者も堂々とした発表で、日頃の取り組みや考えがよく伝わってきました（表2）。

（2）苦悩しながら作成した「病院経営調査」

病院の施設概要、施設基準・加算、職種ごとの人件費・手当、購入・徴収金額、経営調査、維持管理費などを取りまとめ、事務長会独自のベンチマークとして活用しています。ライバルである各病院に対して手の内を示すなど、他県の事務長会では考えられないとよく言われます。会員病院全体で医療を盛り立てていくという考えで、自院の組織力アップ、病院運営の参考になればということで調査しています。

調査はかなりのボリュームがあり、部下育成の一つとして若手事務職員が作成していることが多いようです。私も事務長になるまで何度も作成しましたが、最初は言葉の意味も分からずストレスでしかありませんでした。右手に経営辞書、左手に医療辞書、正面には診療報酬の解説集や点数表、施設基準、決算書・財務諸表……。毎回苦悩しながら作成しました。おかげで経営指標や施設基準、各種経費等の数字を見てもアレルギー反応がなくなったのは、この時の奮闘があったからこそかもしれません。



写真 当院で開催した「熊本県病院広報を考える会」。各病院担当者の情報交換・交流の場になっている

（3）工夫とアイデアの塊である「熊本県病院広報を考える会」

事務長会会員病院の広報に携わる担当者の連携を図ることにより、それぞれのスキルアップ等につなげ、広報業務の質向上、広報の重要性の認知度を高めることを目的とし、2017年度から事務長会の下部組織として活動を開始しました。勉強会だけでなく、「広報カフェ」といわれる気軽に情報交換や交流ができる場としても力を入れています（写真）。

私は初代の担当事務長になり、各病院の広報担当者と接する機会が増えました。いかにお金を使わず自院を院内外に知ってもらえるか、アイデアと工夫だけで広報をしている広報担当者が多く存在していました。病院としてはとてもありがたい発想で、そのことがきっかけで、私は今でも「お金を使わず効果的な広報をする」ということにこだわり続けています。広報に関する当院の奮闘は第7回で紹介します。